

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400642		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホームいわき平窪		
所在地	福島県いわき市平中平窪字横枕10-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成27年6月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様はもちろんスタッフの一人ひとりの個性を生かし『その人らしさ』を追求しています。
 ・利用者様とスタッフの壁を取り払い気兼ねない関係を構築し快適な暮らしを提供しています。
 ・開設より約2年になりますが職員の離職がゼロであり真の馴染みの関係が築かれています。
 ・認知症緩和ケアの手法の一つであるタクティルケアを学び、顧客の良質なサービスの一つとして『心と身体に寄り添う』を提供しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症サロン開設やサポート講座開催に向けて積極的に働きかけており、事業所として認知症理解の為の情報を発信し地域にとって重要な役割をになっている。
 ホーム長・ユニットリーダー・スタッフの隔たりがなく、自分の意見を言える働きやすい職場作りにも努めており、信頼関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関、事務所に掲示。毎朝礼時に唱和し共有している。定期的にビジョン研修を実施し全職員の理解を深められるようにしている	理念の「その人らしく生きられるように」を基に一月毎に目標を掲げ、ユニット会議で評価し全職員で今日出来る事をする働きかけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時より隣組へ加入し積極的に地域活動に参加。日常的に散歩、買い物等へ外出を励行し自然な形で地域住人等と接触できるよう努めている。	地域行事や活動に積極的に参加している。利用者と一緒に回覧板を回したり手作りの花を分けるなどして交流を図っている。毎年恒例の地域の子供達によるじゃんがら踊りは利用者の楽しみとなっている。共に支え合う気持ちを大切にしながら地域での関係を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に認知症サポーター養成講座を実施。地域へのグループホームとしての役割を発信し理解を深められるよう努力している。愛の家認知症介護サロンを開設し地域住民へ認知症介護の相談を受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期開催し意見交換ができ、意見等を戴き地域に貢献できるように働きかけている。運営推進会議にて地域の認知症介護相談の提案あり、認知症介護サロンを設立しました	他地域の複数の区長を始め多方面から多くの方々の参加を頂き、毎回有意義な会議ができています。提案事項のサロン開設も実現し300部の案内誌を各地域区長の協力を得て配布した。誰もが気楽に立ち寄り相談できる窓口としての役割を果たしたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ積極的に担当窓口を訪問している。認知症サポーター養成講座の定期開催を出来るように計画している。(2回/年)介護相談員が定期的に来訪していただいている	行政とは連絡を密にしており、何かあれば相談しながら早期対応に努めている。月2回の介護相談員の訪問あり、利用者に関わりをもってくれる事で様々な情報が得られ対応に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアが当たり前であることを認識し、全職員で共有できるように定期的に研修を実施し日々のケアに生かせるように働きかけている。	利用者の言動には否定せず、危険のない限りは自由に過ごす事ができるよう見守っている。定期的に研修を重ね意識を共有して日々のケアに努めている。朝礼で虐待等のメディア情報を話題にすることもあり、互いに注意あっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設時研修に当然であることを認識したうえで運営している。定期的に研修会を開催し意識付けに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に活用できるように、開設時研修に実施し、年間研修予定カリキュラムに組み入れ理解を深められるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様より、ご理解を戴けるよう説明し、納得頂いた上で、ご契約を結んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来訪時には生活の様子をお話しご意見を、お聞きし反映できるように努めている。毎月、暮らしの様子をお届けしている。1回/年家族アンケート実施事業運営に生かせるようにしている	気兼ねなく思いや要望が話せる雰囲気作りをしており、利用者・家族から多くの話しが聞きかされている。年1回の家族アンケートでは言葉づかい・清掃などの評価につながり、良い意味で職員の刺激となっている。より良い事業所作りの運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にヒヤリングを実施意見を聴取している。又、会社内でエリア間で責任者会議1回/月を実施し会社全体の動向等の情報を得て各事業所に持ち帰りユニット会議(1回/月)・全体会議(1回/3ヶ月)を開催し各職員の意見も反映できるようにしている	管理者は定期的に職員と個別面談を行い、悩み・意見・提案を聞き事業所内で改善できる事は即実践に繋げている。難しい事案は上層部に報告・相談し会社や他事業所の情報を得て反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格支援制度を導入し、各自のレベルに合わせたスキルアップ研修を実施している。各職員と同じ目線に立って常々、会話するようにして一人ひとりの状況に合った対応を心掛けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、各自にのレベルにあった研修を実施している。資格支援制度を導入しスキルアップを励行している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に交流を深め相互の質の向上に努めている。お互いに向上できるように交互に体験実習等も実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様が満足のいくサービスを提供できるようアセスメントし、ご要望に沿えるサービスを心掛けて実践できている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様と良好な関係を築けることによって、良質のケアが営める事を心掛け、気軽に話のできる家族のような関係を構築できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医療機関や介護サービス事業所と綿密に話し合いご家族、担当ケアマネージャーからの情報を基に、最善の支援を検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『人と人のつながりを、介護を超えるチカラにする』をビジョンと掲げ、利用者様と介護を感じさせない関係を築き上げている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居されたら、ご入居者様の家と捉えていただき、ご自由に行き来できる環境を心掛け、面会、外出、外泊を励行し接点を深められるように配慮し共に支えられる関係作りに力を入れている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族様から聴取し『その人らしさ』を大切に、ご支援できるように努めている	家族・知人の面会が多く面会時には暖かく迎え、楽しい時間を過ごせるよう支援している。入居後は近所の方々との交流もでき、新しい関係作りができています。馴染みの関係が継続できるよう最善をつくしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スムーズな人間関係を築けるように、職員一人一人が意識し橋渡しができることによって家族のような関わりが出来る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入退居に関わらず、ホームで知り合えた方々すべての人との、関係性を継続できることを意識した関係作りをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個性を大切に、その人の思いを大切に出来る生活設計を心掛けています	利用者の会話や行動の中で希望や意向をくみ取り、その人らしい生活が送れるよう支援している。要望は個別対応も含め可能な限り柔軟に対応している。実現できる喜びを感じる事で自分の希望を数多く伝えてくれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで培った生活を大切にし、ホーム内でも実践できるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様との関係を深められることによって、些細な事でも解り合える間柄になっているため、職員、利用者様が共に支え合える関係が築かれている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様と常々話し合い、現状に即した介護計画を作成しご満足していただけるようにしています。又、定期的にモニタリングし担当者会議開催し意見の反映や情報共有している	担当職員が個人モニタリングシートを作成している。身体状況やニーズの変化に合わせて本人や家族の意向を取り入れながら現状に添った介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って、時系列に生活の様子全般を記録し職員間で情報を共有し、各自に沿ったケアに反映できるように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのニーズに応じた対応を、ご本人ご家族様と話し合い最良のサービスを心掛けている。必要に応じ医療機関、他の介護事業所との連携体制を整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に根ざせるホーム作りを目標とし、様々な形で地域活動に参加できるように働きかけている。日常的に散歩、買い物等の外出を励行し、活動内容を地域住民にご理解いただけるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関より、往診(2回/月)していただき、ホームドクターとしての役割を担っていただき利用者様の目線に立った関わりをしていただいています	利用者・家族の希望に添って、かかりつけ医の受診は職員が同行して家族対応でお願いし、他の利用者は協力医療機関から定期的に往診を受けている。夜間の体調不良時に対応してくれ、どんな事でも気楽に相談できる信頼関係ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と医療連携体制を整えて、健康チェック(1回/週)を実施している。又、24時間オンコール体制を整え必要時に連絡し指示等を受けられる体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携を保てるように、随時情報交換をし、状況にあった支援が出来るようにしている。スタッフのスキルアップを高め早期退院に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前から、重度化の指針終末期の在り方について、ご家族様と綿密に話し合いをして受け入れている。協力医療機関とも情報を共有し支援体制を整えている。	家族の意向を確認し、その都度相談しながら家族の希望に添って対応している。状態悪化時に合わせ協力医療機関と連携を密にし安らかな最後が送れるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設前研修にて全職員が普通救命講習を受講し、緊急時の対応についての知識習得に取り組んでいる。定期的に研修会を設け緊急時の対応に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2年以上、避難訓練を実施し、その都度問題点を抽出し様々な視点から対策を立て安全管理に努めている。又、毎月11日を防災の日と定め安全対策を実践している。災害時の緊急備品を整備している。	消防署の指導による避難訓練はもとより、防火意識をいかに徹底するかにも力点が置かれている。毎月事業所独自の防災日には、コンセント周囲の清掃・避難経路の確認をし日常から火災防止に注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しそれぞれに合った対応を心掛けるように接することで、良好な関係が築かれている。	一人ひとりの人格を尊重した丁寧な対応に気を配っている。。業務本意の対応はせず、利用者の希望に添ってさりげなくいっしょに行動して関係を深めている。自分の言葉で意見を言える雰囲気作りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの個性を大切に発揮できるような関わりを重視している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの方針として、常々利用者様が中心にいて自己啓発出来ることを業務としています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性を大切に身だしなみができるように心掛け実践している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理全般に参加を励行し、自宅にいた時のように自然な形でご参加いただけるような場面を、お作りしている。	地元の食材を使い目先の変化を大切に献立作りをしている。行事食の他に、月1度の自由食日は意見や希望を聞き食材の買い出し・下準備・調理を出来る範囲で職員と共に行い、いっしょにテーブルを囲み食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、季節に応じた食事を管理栄養士が献立を作成し、ご提供している。又、各自に意見をお聞きし定期的に自由食を設け好きなものを提供できるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを学習し各自の状況に応じたケアを把握し援助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて観察し、一人一人の排泄パターンを把握したうえで、定時誘導し日中はトイレを基本とし排泄いただけるように支援している	日中は排泄チェック表を活用しながら表情や仕草をキャッチし、気持ち良く排泄出来るよう支援している。トイレでの排泄は自立への大きな足掛かりとなり、良い成果が得られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた排泄パターンを把握したうえで、水分摂取や軽運動を実施し、自然排泄を心掛ける取り組みをしている。主治医、薬剤師と連携し適切な排便コントロールが出来るようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を保清のみにとらわれず、リラクゼーションの場と認識し個々に合った入浴を心掛けている	希望やペースに合わせて、臨機応変に対応している。夜間のシャワー対応も行っている。入浴を好まない利用者には、散歩に出かけ汗をかけた後に入浴を促し自然に入浴できるよう工夫している。利用者一人ひとりに合わせた楽しいイメージ作りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの、一人ひとりのライフスタイルに応じた休息や睡眠パターンを大切に支援している。昼食後に殆どの利用者が1時間程の休息がとれるように働きかけ支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導を導入し、提携した薬局の薬剤師により薬のセッティング、医師との調整役等を担っていただき安全な服薬管理体制を整えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動等に、ご活躍できるような自然な形で参加しやすい場面を作り、一人ひとりが生きがいを持って過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出レクを計画して社会交流や気分転換を図れるようにしています。又、園芸活動に力を入れて畑や花の栽培等を実施し外に出たいと思えるきっかけ作りをしています	利用者の希望を取り入れながら季節に合わせてお花見・果物狩り・古民家見学に出かけ楽しんでいる。日常的な散歩や買い物は地域周辺の新しい発見や馴染み作りに繋がり社会生活に溶け込む機会となっている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より、お小遣いをお預かりし、日常的に買い物等にお連れし支払等の支援をしお金のやり取りを出来るように配慮しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了承を受けたくうえで、ご希望に応じ気軽に、やり取りできるように支援している。携帯電話を持ってご家族や友人と連絡を取っている方もいます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内で季節感を味わっていただけるように、一緒に制作から参加していただき季節に応じた飾りつけを楽しんでいる。居室、共用空間の清潔と季節に合った温度調整を心掛け快適にお過ごしいただけるよう支援している	窓が大きく自然光と風通しが良好で過ごしやすい環境となっている。壁には利用者手作りの作品や行事のスナップ写真が飾られており暖かい雰囲気を出している。畳スペースの設置や素材を重視した苦痛を感じない椅子を使用する等随所に細やかな配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士が気軽にお集まり出来る空間を作り、自由にお過ごしいただいている。ホールに和室コーナーを作り足を延ばしてお過ごしていただける空間をお作りしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	ご本人が、おくつろぎ戴けるように、入居前からご家族ご本人と打ち合わせをし、好みのカーテンを選んでいただく事から始まり自身に合った居室環境作りを励行しています。	入居時にカタログから好みのカーテンを選んでもらっている。馴染みの家具も時を経て不自由な部分を補うように徐々に増え、利用者一人ひとり、思い思いの居室作りをしている。居室のドア枠は角がなく丸みを呈しており、事故がなく利用者が安心して生活できる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全バリアフリーとなっており、適切な場所に手摺を設置している。場所等が分かりやすいように工夫し自立した生活を営めるように配慮している		